

はじめに 7

I 私の半生

一 漁民の子として——幼年・少年期 25

(一) 漁民の子 26

お産

一銭講

山行き

鱈網

盆と正月

(二) 講のこと 44

松蔭十文講の発生

五人組松蔭十文講の組織

十文講の主旨

嘉納詳のこと

(三) 漁民の中であったこと 47

丙午の迷信

出産前に戸籍に入れる

生と死と親と子

親と子の絆の善悪

二 酒蔵稼ぎをしつつ——青年期 60

(一) 杜氏の青春 63

まちがえられて困った女

好きな女を慕うて神戸まで

好きな女に打ちあけられず

観世音の利生と母の死

友に誘われて

淋しく死んだ武司

好きが却って仇となる

世話女房の女

大きな乳房

姉妹に想われて

(二) 清子と出会う 78

好きになれば恐いもの知らず 好きな女に巡り合う

筆助じいさんの死

三 結婚から壮年へ 83

(一) 漁民の好きな夫婦 83

好きな女と夫婦に

二度目の女と世帯を持つ

男子出生と父の死去

貧しい中で土地を買う

(二) 懺悔物語——亡き妻に捧ぐ 99

はじめに

イカ釜縄漁業でのこと

三津乾エビの最盛期

帆曳藻打瀬網

二人で一人前

板子一枚下地獄

妙な嫁取り

四 混乱の日々——終戦直後 123

愛しい我が子の死
魚を求めて
恐ろしい渡畑船
善いのか悪いのか
妻の出産と病氣
栗南瓜の味
甘藷買いは命がけ

II 安芸三津という漁村

一 母の海に生きた安芸三津漁民 139

(一) 「安芸三津」の由来 139

(二) 安芸津の海 142

二 安芸三津の漁民 148

(一) 瀬戸内の七漁具漁師 148

(二) 大芝漁場 151

(三) 中部海区と漁業調整委員 153

三 安芸三津の漁業 154

(一) 夜漁り(篝火鉾突漁) 154

(二) ワチ叩き網 156

ワチ魚網漁業

ワチ魚の習性と移動

潮流の見かた

ワチ叩き網漁法

(三) 引かけ漁(文鎮漕) 162

逆反漁業の引かけ——文鎮漕の島村助次郎の生き方
文鎮漕の難しさ

(四) タコ壺とタコ壺縄漁 168

安芸津漁業の始め

素焼タコ壺(岡春蔵)

安芸津のタコ壺縄漁場区域

タコ壺縄漁の始め

真瓶タコ壺(岡春吉)

(五) タコ壺繩動力漁船と漁撈 175

沖タコ壺

(六) イカ畑漬網(イカ笠) 177

イカ笠の顛末

イカ畑漬網漁の始め

蒲鉾型イカ笠

吊り型イカ笠

イカ笠の材料

イカ畑漬網(網干型)

鼓型イカ笠

丸型イカ笠

虫笠型イカ笠

漁場と漁期

III 漁師として生きる

一 舟虫の泣きごと 197

あじろ

酒を呑み海亀は死んだ

芭蕉かじぎと住吉祭

海の主アシカ

酒を呑んで海亀は海に消えた

縛網とかじぎとうし(メカジキ)

鯨網(ぼらあみ)とハマチ ハマチ延縄の話
鯨網と鯨 漁師と時刻の計り方

二 潮流の変化と応用——漁師博士論文 226

潮時の名称と諺
漁師の目
節季のあれこれ
潮流の変化を顕す名称
豊島のイカリ祭
大芝漁場潮と風

三 漁民慣習史Ⅰ——漁船の部 241

漁船建造の契約
舟おろし(進水式)
建造費領取証
漁船建造費と酒桶
舟たで
かあらすえ(起工式)
漁船建造費の変遷
灯籠船
山おろし
たで棒
「おもかじ」と「とりかじ」 「舟たで」をしてマンが悪い
「舟たで」をしてマンがよい
舟靈の信仰
漁船の慣習むすび

四 漁民慣習史Ⅱ——掟と申し合せと仁義 254

はじめに
底曳網の申し合せ破る
屋打瀬の申し合せ破る

五 漁生活の諸相 260

初漁の船出し
漁民の忌む言葉

六 漁法と船 266

(一) 漁法 266

カタヨセ網
ガール(ウツボ)
湾の潮流
タイのモチアミ
エイカギ
打瀬網
イカの漁法
タコ縄漁

(二) 船 282

いろいろな船
ケムリアラン
網
槽
船の食事

七 安芸津の漁船と櫓・碇 303

(一) 安芸津の漁船 303

安芸津漁民と漁船
漁船構造と建造費
木挽さんの作業
舟おろし
安芸津の造船所
漁船用材のあらし
敷据え
山の神おろし

乗り初め

繆船

(一) 安芸津の櫓 316

櫓の話

櫓と名称

櫓の構造

櫓の効用

漁民と櫓

櫓の区分

櫓のことわざ

(二) 安芸津の碇 321

碇の話

碇の種類と名称

鉄錨の構造と名称

碇の類似船具

碇のことわざ

動力漁船の帆曳打瀬禁止

八 漁業技術の伝承 327

漁業技術の伝承

海の魚は潮でころせ

鰯網の採取

鰯敷網漁場と胡子金

イカ笠網の凹潰について

鯛縛網漁場を開発

鯛吾智網潮流の按排

夏の大潮、星のエビ溜

IV 昭和底曳網惨酷物語

底曳網が危惧した話が実現した

中部海区忠海漁民大会

小型機船底曳網漁業転換計画書

安芸津底曳網生産組合設立

神戸瀬戸内海漁業調整事務局小貫道也事務局長に直訴する

昭和底曳網惨酷物語

底曳網七ヶ年の惨酷に払った代償

V 気象と潮流

一 漁民と風 387

風について

風の吹く音の味

肌で知る風感覚

春夏秋冬風の名称

風の名称の意味解釈

風についての諺

二 漁民と雨 399

雨について

安芸津の雨の方言

安芸津の雨についての諺

三 潮流の変化と名称 405

漁民になるはじめ

月の出入りと潮の満干

潮流の緩急と応用

潮流の変化と名称

潮位の目安の呼名

凧のいろいろ

風と波

潮の諺

漁民の生活諺

大芝漁場の潮流の緩急

潮の満干と人生

VI 漁村の年中行事

一 年中行事 423

神明祭と歌

亥の子餅搗歌

寒湯春の涅槃歌
二十三夜の提灯祭

五月節供子供歌

二 二十四節と七十二候 432

安芸津の二十四節・七十二候 安芸津二十四節風雨曆
天地自然と観天望気 漁師の時刻の計り方
干支にて方位と時刻 十二支(動物)と漁民の禁忌
十二支と無喜 干支の時刻と俚諺
星の出を見て漁季を計る

三 漁民の習俗 455

掟(おきて) 申し合せ
神明祭(トンド) 新霊盆供養
掟によって組合はずし 掟が罰金で
帆曳打瀬網の申し合せを破る 機船底曳網漁の申し合せを破る
タコ壺縄漁の申し合い 仁義
舳と誘れ・分け 舳い舟

巻末資料 477

解説(香月洋一郎)

492

索引 508

I 私
私の半生



図8 進藤松司さん 昭和49年